

【試合結果】

第35回北海道ジュニアオールスターバスケットボール大会
2年生大会

男子 決勝トーナメント		決勝																
日時	平成29年3月26日 (日)	15:40	～															
会場	江別市民体育館 Aコート																	
結果	○		●															
	帯広地区選抜		旭川地区選抜															
	53	{ <table border="0"> <tr><td>19</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>17</td><td>—</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>8</td><td>—</td><td>10</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table> }	19	—	11	17	—	8	9	—	12	8	—	10		OT		41
	19	—	11															
	17	—	8															
9	—	12																
8	—	10																
	OT																	



【ボックススコア】

帯広地区選抜								
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	小松 竜也	／	4	0	1	2	3	0
5	山崎 賢	／	0	0	0	0	0	0
6	山田 崇太	×	4	0	2	0	8	0
7	金澤 誉	×	5	0	2	1	0	0
8	加藤 真生	／	14	1	5	1	7	3
9	熊谷 晃太	／	2	0	1	0	2	0
10	大澤 省吾	×	1	0	0	1	5	1
11	長崎 有佑	／	0	0	0	0	0	0
12	佐藤 奨弥	／	2	0	1	0	1	0
13	田中 翼	×	5	0	2	1	1	2
14	田中 祐斗	／	0	0	0	0	0	0
15	中村 公哉	×	10	0	4	2	6	0
16	賀陽 優太	／	0	0	0	0	0	0
17	前田 海斗	／	0	0	0	0	0	0
18	相澤 蓮	／	6	2	0	0	1	0
HC	宗岡 安隆							
合計			53	3	18	8	34	6

旭川地区選抜								
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	佐伯 友翼	×	8	0	4	0	4	1
5	高島 祥汰	×	2	0	1	0	2	0
6	大村 康貴	DNP	0	0	0	0	0	2
7	小谷 純哉	／	2	0	1	0	4	1
8	赤坂 尊	／	5	1	1	0	2	2
9	松浦 太陽	／	4	0	2	0	1	4
10	佐々木 壮汰	×	5	1	0	2	4	0
11	鹿又 允綺	／	11	3	1	0	2	0
12	藤井 聖士	×	0	0	0	0	0	3
13	川原田 智久	／	0	0	0	0	0	0
14	及川 隼	×	4	0	2	0	0	2
15	塩田 貴健	／	0	0	0	0	0	0
16	高橋 陸	／	0	0	0	0	0	0
17	菊地 遼大	／	0	0	0	0	1	1
18	富樫 優斗	／	0	0	0	0	1	0
HC	濱田 勝人							
合計			41	5	12	2	21	16

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【選評】

帯広選抜と旭川選抜の決勝戦。
1Q 開始直後から帯広は持ち味の1対1を積極的に仕掛け、フリースローで得点を重ねていく。対する旭川は帯広のディフェンスをうまく崩せず、なかなか得点を挙げられず、立て直しを図るために1回目のタイムアウトを早めにとる。タイムアウト後も帯広は#15を中心にドライブとファーストブレイクで着実に加点していく。旭川はハーフコートオフェンスが攻撃の中心となるが、タイムアウト後もオフェンスのリズムをつかむことが難しく、19-8で帯広がリードして終了。
2Q 何とか追いつきたい旭川はディフェンスのプレッシャーを強くし、得点を挙げたいところだが、帯広の堅いディフェンスをなかなか崩すことができず、ターンオーバーが多くなり、効果的に得点を挙げる事ができない。一方、帯広もメンバーが変わり、ターンオーバーが多くなるが、ファーストブレイクと1対1を中心に要所で得点を挙げ、34-19とさらに点差を広げ、終了する。
3Q 何とか反撃の糸口をつかみたい旭川は#10の3Pシュートで先制点を挙げる。帯広はターンオーバーが多くなり、旭川は一気に点差を縮めたいところだが、シュートが決まらず苦しい展開となる。結局、クォーターでの得点は旭川が初めて1点を上回るものの、45-31で帯広リードは変わらず終了する。
4Q 開始直後、帯広のターンオーバーが連続で起きたのを機に旭川はオフェンスの息を吹き返し、#11、#4のシュートで45-35と点差を10点に詰めることに成功。その後、旭川#9のシュートで一桁差まで詰めるが、帯広も激しいディフェンスからファーストブレイクで対抗する。結局帯広が意地を見せ、旭川の反撃をかわし、優勝をつかみ取った。帯広の粘り強いディフェンスからの速い展開や1対1の駆け引きのうまさ際立った試合であった。一方、敗れはしたが、旭川の最後まであきらめない中学生らしいひたむきなプレーは称賛に値するものであった。両チームの健闘に心から拍手を送りたい。